

日時: 2022年7月22日(木) 15:00-16:15 場所: 横浜市青少年センター 第一研修室

◆ 主催: 防災塾・だるま 総括運営: 鷺山 総合司会: 樋口 記録: 田中(晃)

◆ 談義の会参加者: 26名 (会場18名、ZOOM: 8名(講師1名含む)) (敬称略)

話題: 「2019年台風19号浸水被害とその後から 防災まちづくりを考える」  
～床上浸水住宅の現実と復旧の問題点から浸水地域・住宅の防災と課題を考える～

講師: 河原典子氏 (一社)神奈川県建築士会防災・災害対策委員会 委員長  
Kappa 研築工房 河原一級建築士事務所主宰

#### 鷺山塾長挨拶

台風で自宅が被災した経験から、地域の防災まちづくりに取り組まれている河原典子氏に講演をお願いしました。被害の実態と取組を報告いただき、被害を最小限にする防災まちづくりの未来像を共に考察したいとお願いしています。今日は、ご都合でオンラインでの講演となりました。



## 河原典子氏講演

### ■ はじめに

2019年の台風19号は超大型台風で、伊豆半島から上陸、全国で河川氾濫や土砂災害が発生しました。

川崎市多摩区菅稲田堤にある自宅が、10月12日に床上70cm浸水しました。川崎市では検証委員会を立ち上げ、住民意見や検証。結果から短期対策は実施し、中長期対策は具体化半ばの現状です。

被害市民として、市長への手紙や市民オンブズマン調査依頼など浸水原因究明と有効な対策・対応について追究し続けましたが、未だ根本的な解決には至っていません。

浸水被害から、これまで行動して経験してきたこと、想うこと、水害リスクのある地域の課題と防災まちづくりについてお話しして、共有させていただきます。



### ■ 浸水地域と浸水原因

川崎市で河川が原因で発生した3か所の水害の一つで、多摩川の増水と大丸用水吐き口と水門からの逆流で12haの浸水被害が起きました。大丸用水は農業灌漑用水で、利水権は大丸用水利用農業従事者にあります。宅地化により、菅地域の雨水排水基幹施設としても利用され、稲城市と川崎市とで管理しています。

浸水は、稲城市排泥門からの多摩川流入水など水路からの越水、未管理の錆びた水門が全開であったことからの逆流、アクリル板からの漏水でした。市民から見るとあり得ないことが重なり、水路や関連施設が無関心に放置されていたことが原因でした。

\* 菅稲田堤3丁目被害状況: 床上浸水189件、床下浸水49件、合計238件(罹災証明)

\* 川崎市独自の災害支援金【多摩区分】: 1億410万円、30万円/件



### ■ 当日夕方には道路が冠水し、地域住民は大騒ぎでした。

19時過ぎから床上浸水となり、翌朝は、家具の転倒、家財が浮き散乱、畳やカーペットは水を吸い搬出困難、建材基材も吸水膨張により廃材となりました。



浸水住宅では片付けをしつつ、り災証明申請手続きをしました。その後、清掃・解体・消毒・乾燥が行われ、床下が地盤ではないコンクリートベタ基礎の場合はプールのように水が溜まった状況のため、ドリルで穴をあけて排水したりしました。ガラス繊維の断熱材は、水を吸収してしまうため、撤去せず壁内に保水したままにしますと、カビや悪臭が出てきます。仕上げ工事だけ済ませても、再工事になる場合もあります。「水害にあった時に」などのパンフレットなども参考に、掃除や片付け、電気の復旧など、専門家に相談する必要もあります。



## ■ 他地域に学ぶ「タイムライン」(事前防災行動計画)

大量の雨によって引き起こされる水害の経験を活かし、他地域に学びたいと思い、東京都足立区の事例を知りました。ポイントは ①自分の住む場所の被害を予測する。②浸水の恐れがある場所から警戒レベルに応じて事前に避難する。③正確な情報を素早く入手することでした。

さらに、その「タイムライン」には行政、地域、地区の連携と避難行動計画が出来ており、前日9時には本部が立ち上がり、自主避難が行われていました。

このような事例があることから、住民・地域・行政連携の避難行動ができるよう、タイムラインを確立し、命が守れるよう取り込むことが重要だと考えました。

## ■ 行政と地域と住民の反省点

反省点は、地域・地区の連携した避難行動計画がなかったことです。何の準備も心構えもなく、稲城市、川崎市、国、県の管理の連携不足から未管理水門から多摩川から大丸用水への流入水もあり、水門新設 50 年来初めての試し操作だったのか、三沢川水門全閉で三沢川水位が計画高水位よりも上がり、越水や逆流により、道路冠水時には、住民は総出で外に出ました。その後、水門が全開されて水位が低下、安堵して家に戻ってしまったのですが、どこから水が出たのか住民は判かりませんでした。引き続き水門操作が行われ、水位が上がることも知らず、その後、浸水して、住宅は準半壊、車両全損してしまいました。情報提供があれば、車両移動と家財を事前に 2 階に上げることができて、減災できたのにと、残念です。

## ■ タイムラインの作成

川崎市では「マイタイムライン」を作ることを対策に掲げているが、地区行動計画がないので、地区で行動計画を検討したいと考えています。参考になるものとして鶴見川の総合治水、加藤先生の地区防災計画をヒントに、災害に強い、防災「も」まちづくり、B サロンで聞いた、岡山県総社市下原の西日本豪雨で犠牲者がゼロの事例などを参考にしていきたいと考えました。

## ■ 今後について

行政は水位の基本情報をもとに氾濫前に、マイタイムラインでの避難を勧めています。地区防災計画で、避難スイッチをどの時点で入れるかを予め決めておけばみんなが助かるという理念です。

ハザードマップにしても、皆が予め共通理解していても、行動しなければ駄目で、水門操作が始まるタイミングの情報伝達方法を決めていなければなりません。

災害リスクを知り、復旧しやすいまちになるよう、地域でも一軒一軒迄も包含した地区タイムラインによる地区の行動計画に繋がればと思います。コミュニティが豊かな地区は防災も強い！地区防災計画で「楽しく、防災もまちづくり」に今後取り組んでいきたいと願います。

### 地区防災計画制度とは

内閣府防災担当講演から

1. 地区で取り組む「共助」(及び「自助」)の取り組みを「地区防災計画の素案」として具体化する。
2. 作成された「地区防災計画の素案」を、市町村の「地域防災計画」に提案し、「地区」における「共助」「及び「自助」の取り組みと市町村の「公助」と連携させることができる。

## ■ Q&A

Q 地区防災計画の新たな展開を防災まちづくり協議会で作っていくのか。防災活動に熱心な地域と見えるが。

A 定例的な活動がしっかりしたマンモス町内会。義務感も大きい。町会組織と防災計画が出来上がっているようだが、警戒レベルに対応し、具体的にだれが、いつ、何をするか明確化していくこと（タイムラインの確立）が課題であることがわかった。

Q 平塚の金目川は、ウォーターバックで浸水した。その対策は大変だった。

A 川崎市の対応はどこまでやるか難しそう。水門操作、排水機、排水ポンプ車の活動と効果、我々にはわかりにくい。1人でやるものでもなく、市や町会との連携が重要だとわかってきた。

Q タイムラインのどこでスイッチを入れるか難しい。旭区では近所の助け合いとして作っており、研修会を開いている。自治会、隣近所の「アワ（我らの）・タイムライン」が重要だ。

A 公助から、隣近所、自助まで様々なレベルでの連携が必要と知った。

Q 菅町のホームページを開くとたくさんの情報が詰まり、立派な自治会組織である。課題は何か？

A 広大な地区の自治会で、その中での災害リスクも、洪水や土砂災害など異なる。災害リスクに応じた防災計画を具体的に確立していくことが大切だと思う。同じリスクの住民同士であれば、協力してくれる仲間もいると思う。

## ■ 鷲山塾長総括

近年言われる「タイムライン」の理念はアメリカのカトリーナ台風の反省から生まれ、輸入された。タイムラインは、「行政のタイムライン」から盛んに言われる「マイタイムライン」の間に、「地区タイムライン」や今日出た言葉として「アワ（ご近助）タイムライン」などが否応なく存在するはずである。減災に結びつくためにはそれら同時に進行するよう統合されていくことが必要ではないか。そのような示唆を河原氏の報告からいただいた。河原氏に感謝申し上げたい。また、「防災塾・だるま」の仲間として応援していきたい。

（河原講師）

いろいろな視点でのアドバイス、参考になりました。今後ともよろしくおねがいします。

## □ 添付資料

- (1) 2019年台風19号浸水被害とその後から 防災まちづくりを考える【レジュメ】
- (2) 2019年台風19号浸水被害とその後から 防災まちづくりを考える【スライド抜粋】
- (3) 第187回談義の会についての感想
- (4) 第187回談義の会 河原講師の活動と4つの視点で再整理 記録者の田中晃が作成

## □ 参考資料（川崎市 HP）

川崎市：[令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域及び河川関係の浸水に関する検証報告書の公表について \(city.kawasaki.jp\)](https://city.kawasaki.jp)

- ・ Ⅲ. 河川関係の浸水に関する検証 [3kasenkankei.pdf \(city.kawasaki.jp\)](#)
- ・ 令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する検証報告書【概要版】川崎市建設緑政局 [0-2kasenhoukokusyogaiyou2.pdf \(city.kawasaki.jp\)](#)
- ・ 令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会配布資料（JR南武線三沢川橋梁周辺） [Microsoft Word - 01è<sup>a</sup>æÿ” ä¼¼¼ ‘æ¬i ç¬i¼<åQæ.©i¼>.doc \(city.kawasaki.jp\)](#)

## ■ 記録者の感想

被害者個人として、各種提言者として、建築士である専門家としての多様な活動で、川崎市の短期対策、中長期対策まで整理された経過と課題が分かりました。

今回地区防災計画を作る組織化までできており、これからが期待されます。

●次回（第 188 回）案内（会場参加+ZOOM 参加）

- ・日時：2022 年 9 月 16 日（金）15：00～16：15
- ・場所：横浜市青少年センター 第一研修室
- ・話題：A サロン主催「地域のマルチハザード解析と対策構築」
- ・講師：落合務氏（神奈川大学准教授）

第 187 回 談義の会についての感想

A サロン

- ・河原さんの説明は当事者で、大変さや課題の多さの説明でわかりやすかった。
- ・水害現場の課題が分かった。大丸用水水門などが開いたままでいたことが浸水の原因の一つであった。河川管理者の責任であり、人災でもあることを認めるべきでしょう。内水氾濫や外水氾濫がどのように起きたか、実際のデータが出ていない。断熱材が水を吸収してカビが生えたり、膨張したりする。再工事が発生した。
- ・事実を知りたい。：行政側からのケースごとのシミュレーションが提示されていないことが課題とわかった。仮に検討されていても住民に知らされないという問題。被害額はどの程度か知りたい。解決に進んだこと、わかったこと、不明なことの分析してみたい。  
⇒市民はどう行動したらよいかの判断を整理したい。
- ・残った課題は何か。得たノウハウはなにか。：検証委員会の結果、対応の事実も知りたい。起こってから検討するのではなく、事前に防ぐ防災になっていない。レーダー情報と水位情報、降雨情報等を並べて、原因を追究すべきだと思う。
- ・その他：洪水ハザードマップは降水量最大値で表記されているが、検証すべき（当日の降水量は、ハザードマップの想定降水量ほどではない）

B サロン

- ・河原講師ご自身が被害にあったということで講義に迫力があり、音声もはっきりしていてとても聞きやすかった。有意義な講演だった。
- ・水門の管理者が不在だったり開け閉めを住民に知らせていなかったりなど行政と地域の人がつながっていないことで浸水の被害がでた。普段からの情報の共有が大事。同じ地域でも災害の危険性が異なるので小さい単位での対処が必要。
- ・すべての災害は想定外で起きている。普段想定している以上の事態について、地区のみんなで想像をしておくことが大事だとわかった。
- ・これからの教訓として MY タイムラインと OUR タイムラインを作成することが大事だと思う。
- ・管町会はマニュアルはあったようだが、河原氏の課題意識が理解できた。
- ・「武田哲也の今朝の三枚おろし」の番組で「自殺希少地域を」に行くというラジオ番組が YouTube で配信されている。防災力のある街にはコミュニティが大事というが「おおらかさ」で人々がバランス感覚を事前に身に着けることで助けあいがスムーズに行くのかもしれない。
- ・水害をどう防ぐかは難しい。人為的なミスの課題もあるが、行政、自主防災会、個人の役割とプロセスを検証する必要がある。情報が共有されれば福祉の取り組みも 3 割以上重要になるかもしれない。

## C サロン 講師を囲んでの協議

・講師の町会は大きな町会で、人口が二宮市と同じ。大きくなると共通理解も難しいのかもしれない。水防団は活動したのか？

\*講師：水防団、消防団、行政、町会などいろいろな動きができていなかった。

マニュアル化はされているが、災害レベルに応じた動きの共通理解化が課題。河川管理は県だし・・・と様々な主体の役割の整合がされていなかった。

・国の水門操作と行政の連携・調整などと、地域との連携はどうなっていたのか。行政と地域とで水害リスク想定が決められていることが大事ではないか。

\*講師：18の防災地区に別れており、災害リスクも異なる。それぞれの地区の災害リスクに対応した計画が必要だった。

原因を追究し、次なる災害時には、防げたはずの被害がゼロになるようにしたいと奔走してきた。

・例えば、自分の地域でも、要援護者の避難について、なんとなく民生委員がやることのイメージだけがあったりするが、正式には決まっていない実態がある。ご近所の皆さんが「あなたがいるからだいじょうぶ」という意識。この共通理解化が必要。

・ボーイスカウト、交通安全も教育、など子どもを対象とした活動をしている。

水害の危険にある人は3000万人とされる。ボートづくりなどで、意識の啓発に取り組んでいる。

\*講師：小学校時代から始める防災が大事。

\*講師：タイムラインの見本となるようなものを知りたいし、目指したい。

・塾長 タイムラインは、国のタイムライン（災害対策基本法）、それに基づく、自治体の「地域防災計画」が定められているが、行政の中でも、例えば学校職員が自らの任務を知らなかったり、地域と連携していなかったりする。家庭・個人のマイタイムライン、Bサロンが言うアワータイムライン、自治会タイムライン、マンションタイムラインなどが並列して共通理解化され、整合されるべき。それこそが「防災まちづくり」ではないか。河原氏の地区でも「地区防災計画」が成就していけるように応援したい。

## D サロン

・被災体験を記録して伝える努力はとても大切

・人が亡くなる様な事態が起こらないと、本気になれないのか（横浜市緑区白山では土砂崩れで人が亡くなっている）

・水門が正しい位置に設置されず、排水ポンプも作動しない状態で放置されていたのは問題（誰も気づかず、指摘もされなかった。）

・町内会の範囲が広すぎた。多摩川沿いと丘陵地帯の住民ではリスクが異なる。

・菅町内会のHPは立派で、防災についても詳しく記載されているが、具体的な災害への行動計画として、どの自治会にある課題として共有したい。

・大雨や洪水に遭ったら、流されない様にロープで体を縛る！？

以上

第 187 回談義の会 水害後の河原講師の活動と「タイムライン」「4つの視点」で再整理

1 地区防災の課題と今後の展望

| 主体  | 実施事項   | 課題と希望  | 今後の取組み案  |
|---|--|--|--|
| 菅稲田堤水害<br>経験者、個人<br>として<br>現状と将来への<br>希望      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者として                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－原因究明と有効な対策を求めた署名提出</li> <li>－市長への手紙</li> </ul> </li> <li>・市の対応に対して                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－市民オンブズマン調査依頼</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区防災計画を認識している関係者不在。</li> <li>・検討内容、進捗状況が明らかにされない。</li> <li>・「マイ、アワー、地区、行政」4者が繋がり、顔の見える防災まちづくりへの進化希望。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこでも、誰でも、いかようにも作れる「地区防災計画」</li> <li>・住民一人ひとりの防災に対する関心が高まり、継続する「地区防災計画」</li> <li>・参考になる事例を願う</li> </ul>                                     |
| 川崎市民<br>菅町会町民<br>自主防災組織<br>住人としての<br>取組み・働きかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市/河川課に対して                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－説明、質問回答</li> <li>対話を求め続けた</li> </ul> </li> <li>・川崎市検証委員会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－傍聴/パブコメ</li> </ul> </li> <li>・菅町会に対して                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－要望書提出</li> </ul> </li> <li>・国会議員/県議/市議に                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－問題点、要望</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者/自治会員/自主防災組織の住人から市に「地区防災計画」作成の提案を試みたが                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－突破口見えず</li> </ul> </li> <li>・膨大な時間がかかる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「マイ、アワー、地区、行政」の総方向から、気づけたところから始めたい。</li> <li>・顔の見えるまちづくり</li> <li>・地区防災計画（地区タイムライン）作成の取組み</li> <li>・地域分裂を招かないよう、訴訟ではない対話による意見交換</li> </ul> |

2 地区防災計画の確立・「自助・共助・公助の統合」に向けて

| 主体                                       | これまでの取組み  | 課題   | 今後の取組み案  |
|--|---|--|--|
| (1) 個人・家族<br>(私「マイ」)                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者、菅町会の住人（自治会員）、</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の中長期具体策住民説明会開催がない</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムライン準備委員会所属予定</li> </ul>   |
| (2) お隣近所から<br>(私たちの「ア<br>ワー」)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩区道路公園センター（水路整備管理者）を介して説明、質問、回答、対話を求め続ける</li> <li>・自宅近隣復旧改修工事 R2.3 月頃完了</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換での要望事項が未実施、未改善</li> <li>・検討中の中長期具体策については                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－途中経過未公表</li> <li>－R3 年 4 月以来意見交換会未実施</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・排水樋門浸水被害地域                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－川崎市への訴訟中</li> </ul> </li> <li>・地区内希望者への情報交換                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－ R2 年 5 月近隣希望者のライングループ作成</li> </ul> </li> </ul> |
| (3) 町会・自主<br>防災組織から<br>(地区の「コミ<br>ュニティ」) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織一員</li> <li>・市議との協働</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水地域住民、自主防災組織代表、保育園、高齢者施設と連携</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4 年 6 月 13 地区自主防災組織で「タイムライン」作成準備委員会発足に向け人集めを始める</li> </ul>  |
| (4) 行政<br>関係者                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民説明会</li> <li>・検証委員会</li> <li>・三沢川水門は国が管理・操作(操作要領一部修正、警報発信など要望)</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗報告事実、対応に不明点があり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－抗議修正依頼中</li> </ul> </li> <li>・三沢水門は排水機能が無い状態が継続</li> <li>・水門操作開始の警報警告情報提供の要求</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・応急対策・短期対策完了</li> <li>・中長期対策の進捗状況と具体策の説明、実施予定時期の公表・意見交換希望</li> <li>・タイムライン(避難行動計画)作成→市、区、地区、住民とで共有、連携</li> </ul>  |

(整理と考察 田中 晃)